

学校コード 92

注3

設置年度 令和 2年度

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

認可

注2

東京医療保健大学 東が丘看護学部

看護学科

(必要がある場合) ○○専攻

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

学校法人青葉学園

令和5年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 東が丘事務部

職名・氏名 フォウダイリ ワチダトモアキ
部長代理・内田智明

電話番号 03-5779-5301 (内線101)

(夜間) 03-5779-5031 (内線: 101)

e-mail higashi gaoka-po@thcu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「○○大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) ○○大学 △△学部 □□学科

(旧名称: ◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合: 「○○大学」
- ・学部の設置の場合: 「○○大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合: 「○○大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合: 「○○短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合: 「○○大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合: 「○○大学大学院 ○○研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合: 「○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合: 「○○大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、

当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

東が丘学部

	ページ
<看護学科>	
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	17
4. 既設大学等の状況	18
5. 教員組織の状況	21
6. 附帯事項等に対する履行状況等	35
7. その他全般的事項	36

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人青葉学園

(2) 大学名

東京医療保健大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒152-8558 東京都目黒区東が丘 2-5-1
(〒141-8648 東京都品川区東五反田 4-1-17)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タムラ テツオ) 田村 哲夫 (平成14年4月)	—	
学長	(キムラ サトシ) 木村 哲 (平成25年4月)	(カメヤマ シュウジ) 亀山 周二 (令和3年4月)	変更理由：木村学長満期退任の為。 変更年月日：令和3年4月1日 (報告年度：令和3年度)
学部長	(ヤマニシ フミコ) 山西 文子 (平成25年4月)	—	
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)
令和5年度に報告する内容 → (5)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和5年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
東が丘看護学部 学士(看護学)	保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション)	4年	100人	2年次0 3年次0 4年次0 人	400人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	() []	() []	() []	() []	(100) []	() []	(100) []	() []	(100) []	() []	(100) []	() []	1.16倍	1.16倍	1.13倍	1.13倍	
志願者数	() []	() []	() []	() []	672 []	() []	838 []	() []	877 []	() []	638 []	() []					
受験者数	() []	() []	() []	() []	612 []	() []	773 []	() []	811 []	() []	571 []	() []					
合格者数	() []	() []	() []	() []	249 []	() []	296 []	() []	252 []	() []	227 []	() []					
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	115 []	() []	122 []	() []	116 []	() []	111 []	() []					
入学定員超過率 B/A					1.15		1.22		1.16		1.11						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
 ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
 また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
 なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。
 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
 ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合は、「-」としてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	114 (-)	0 (-)	126 4	0 (-)	121 5	0 (-)	111 8	0 (-)	[-] (-)	[-] (-)	
2年次			[] ()	[] ()	0 (-)	0 (-)	110 (-)	0 (-)	127 12	0 (-)	113 7	0 (-)	[-] (-)	[-] (-)	
3年次					0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	100 (-)	0 (-)	116 9	0 (-)	[-] (-)	[-] (-)	
4年次									0 (-)	0 (-)	112 (-)	0 (-)	[-] (-)	[-] (-)	
計	[-] ()	[-] ()	[-] ()	[-] ()	114 (-)		236 4		348 17		459 24		[-] ()	[-] ()	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況**について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ **繰入学生や転入学生も含めて**記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。**春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」**を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した**在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	115 人	0 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	1 人	0 人	進路変更
令和3年度	237 人	1 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	1 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
令和4年度	353 人	4 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	2 人	0 人	進路変更、学修意欲低下
			令和3年度	2 人	0 人	進路変更
			令和4年度	人	人	
令和5年度	464 人	7 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	3 人	0 人	進路変更
			令和4年度	4 人	0 人	進路変更
			令和5年度	人	人	
合 計		12 人		13 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{115} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{237} = \boxed{0.42} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{353} = \boxed{1.13} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{7}{464} = \boxed{1.5} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<東が丘看護学部 看護学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎分野	人間関係論	1前	1								兼1
	心理学	1前	1								兼1
	哲学	1前		1							兼1
	倫理学	1前		1							兼1
	社会学	1前		1							兼1
	文化人類学	1前		1							兼1
	法学	1後		1							兼1
	倫理学	1前	2								兼1
	自然科学の基礎	1前	1			1	1				兼1
	スポーツ科学	1後		2							兼1
	社会保障制度概論	2前		1							兼1
	ボランティア論	2後		1			1				兼2
	統計学	2前	2								兼1
	情報リテラシー	1前	1								兼1
	教育学	2前	2								兼1
	実用英語Ⅰ	1前	2								兼4
	実用英語Ⅱ	1後	2								兼4
	実用英語Ⅲ	2前	2								兼4
	中国語	1前		1							兼1
スペイン語	1前		1							兼1	
小計(20科目)	-		16	11	0	1	1	0	0	0	兼20
専門基礎分野	医療と法(看護関係法)	2前	1								兼1
	医学概論	1前	1								兼1
	解剖生理学Ⅰ	1前	2								兼1
	解剖生理学Ⅱ	1前	2								兼1
	病理学	1後	2								兼1
	生化学	1後	1								兼1
	微生物学	1前	1								兼1
	薬理学	1後	1								兼1
	疾病と治療Ⅰ(呼吸器系)	1後	2								兼2
	疾病と治療Ⅱ(血液系)	1後	2								兼2
	疾病と治療Ⅲ(神経系)	2前	2								兼2
	疾病と治療Ⅳ(泌尿器系)	2前	2			1	2				兼1
	疾病と治療Ⅴ(感覚器系)	2後	2								兼1
	疾病と治療Ⅵ(精神系)	2後	1								兼1
	臨床検査学演習	2前	1			3	1		1		兼1
	臨床栄養学演習	2後	1				1				兼1
	臨床薬理学演習	2後	1				1				兼1
	公衆衛生学	2前	2			1			1		兼1
	人間工学	2前		1							兼1
医療・看護情報学の基	2前	1								兼1	
実用医療英語	2後	1			2					兼1	
政策医療論	2後	1			1					兼1	
保健医療福祉システム	2後		1			1				兼1	
小計(23科目)	-		30	2	0	4	4	0	1	0	兼20

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎分野	人間関係論	1前	1								兼1
	心理学	1前	1								兼1
	哲学	1前		1							兼1
	倫理学	1前		1							兼1
	社会学	1前		1							兼1
	文化人類学	1前		1							兼1
	法学	1後		1							兼1
	倫理学	1前	2								兼1
	自然科学の基礎	1前	1			1	1				兼1
	スポーツ科学	1後		2							兼1
	社会保障制度概論	2前		1							兼1
	ボランティア論	2後		1			1				兼2
	統計学	2前	2								兼1
	情報リテラシー	1前	1								兼1
	教育学	2前	2								兼1
	実用英語Ⅰ	1前	2								兼3
	実用英語Ⅱ	1後	2								兼3
	実用英語Ⅲ	2前	2								兼3
	中国語	1前		1							兼1
スペイン語	1前		1							兼1	
小計(20科目)	-		16	11	0	1	1	0	0	0	兼17
専門基礎分野	医療と法(看護関係法)	2前	1								兼1
	医学概論	1前	1								兼1
	解剖生理学Ⅰ	1前	2								兼1
	解剖生理学Ⅱ	1前	2								兼1
	病理学	1後	2								兼1
	生化学	1後	1								兼1
	微生物学	1前	1								兼1
	薬理学	1後	1								兼1
	疾病と治療Ⅰ(呼吸器系)	1後	2								兼2
	疾病と治療Ⅱ(血液系)	1後	2								兼2
	疾病と治療Ⅲ(神経系)	2前	2								兼2
	疾病と治療Ⅳ(泌尿器系)	2前	2					2			兼1
	疾病と治療Ⅴ(感覚器系)	2後	2								兼1
	疾病と治療Ⅵ(精神系)	2後	1								兼1
	臨床検査学演習	2前	1					1	1	1	兼1
	臨床栄養学演習	2後	1								兼1
	臨床薬理学演習	2後	1					1			兼1
	公衆衛生学	2前	2							1	兼1
	人間工学	2前		1							兼1
医療・看護情報学の基	2前	1								兼1	
実用医療英語	2後	1								兼1	
政策医療論	2後	1				1				兼1	
保健医療福祉システム	2後		1				1			兼1	
小計(23科目)	-		30	2	0	2	4	0	1	0	兼21

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎分野	人間関係論	1前	1									兼1
	心理学	1前	1									兼1
	哲学	1前		1								兼1
	倫理学	1前		1								兼1
	社会学	1前		1								兼1
	文化人類学	1前		1								兼1
	法学	1後		2								兼1
	倫理学	1前	2									兼1
	自然科学の基礎	1前	1			2	1		1			
	スポーツ科学	1後		2								兼1
	情報リテラシー	1前	1									兼1
	教育学	2前	2									兼1
	実用英語 I	1前	2									兼1
	実用英語 II	1後	2									兼2
	実用英語 III	2前	2									兼1
	中国語	1前		1								兼1
	スペイン語	1前		1								兼1
小計 (17科目)	-	14	10	0	2	1	0	1	0		兼17	
専門基礎分野	医療と法 (看護関係法)	2後	1									兼1
	カウンセリングの基礎	2前		1								兼1
	医学概論	1前	1									兼1
	解剖生理学 I	1前	2			1	1					
	解剖生理学 II	1前	2			2	1					兼1
	病理学	1後	2									兼1
	微生物学	1前	1									兼1
	薬理学	1後	2									兼1
	栄養学	2前	1									兼1
	疾病と治療 I (呼吸器系)	1後	2									兼2
	疾病と治療 II (血液系)	1後	2									兼2
	疾病と治療 III (神経系)	2前	2									兼2
	疾病と治療 IV (泌尿器系)	2前	2				2					兼1
	疾病と治療 V (感覚器系)	2後	1									兼1
	疾病と治療 VI (精神系)	2後	1									兼1
	臨床検査学演習	2前	1			2	1		1			
	公衆衛生学	2後	2			1	1		1			
	人間工学	2前		1								兼1
	ボランティア論	2後		1			1					
	看護情報学・統計学演習	2前	1				1					
	実用医療英語	2後	1			1						
	政策医療論	2後	1			1	1					
	保健医療福祉システム	2前	1									兼1
小計 (23科目)	-	29	3	0	3	4	0	1	0		兼17	
基礎看護学	看護学概論	1前	1			1						
	看護倫理	1後	1			1	3	1				
	看護理論	2後	1				1		1			
	看護教育学	4後	1			1			1			
	看護学体験実習	1前	1			1	1	1	6	1		
	看護実践技術論 I (日常生活における援助技術と判断)	1前	2			1	1	1	3	1		
	看護実践技術論 II (治療・処置における援助技術と判断)	1後	1			1	1	1	3	1		
	看護実践技術論 III (看護技術の統合)	1後	1			1	1	1	3	1		
	ヘルスアセスメント	1前	1			1	1		2	1		
	フィジカルアセスメント	2後	1				2		2	1		
看護過程と看護方法論	1後	1			1	1	1	2	1			
日常生活援助展開実習	1後	1			1	1	3	8	1			
看護過程展開実習	2前	2			1	1	2	9	1			

専門分野	地域・在宅看護学	地域看護学概論	1前	1			1		1	1										
		自立支援教育論	1後	1						1	2									
		疾病予防看護論	2前	1						1										兼1
		在宅看護学概論	2後	2			1													兼1
		在宅看護実践論	3前	1						1	2									兼1
		在宅看護学実習	3後	2			1			1	2									兼1
	臨床実践看護学	成人看護学概論	1後	1			1	1	1											
		急性期看護論	3前	1			1	2	2											
		慢性期看護論	2前	1				1	1	1										
		終末期看護論	3前	1			1													
		成人看護実践論	3前	1			1	2	2	2										
		成人看護の探求	4前	1			1	2	2											
		老年看護学概論	1後	1			1	1	1											
		老年看護実践論	2前	2			1	2	1	1										
		家族看護学	2後	1				1												
		急性期看護学実習	3後	2						2										
		慢性期看護学実習	2後	3					1	1	2									
		終末期看護学実習	3後	2			1													
		小児看護学概論	2後	2			1	1												
		小児看護実践論	3前	2			1	1												
		小児看護学実習	3後	2			1	1												
母性看護学概論	2後	2			1	1				1										
母性看護実践論	3前	2			1	1	1	1												
母性看護学実習	3後	2				1	1	1	1											
精神看護学概論	2後	1			1		1	1	1											
精神看護実践論	3前	2			1		1	1												
精神看護学実習	3後	2			1		1	1												
臨床コミュニケーション	2前	1			1		1	1	1											
障害者看護論	3後	1			1		1	1	1											
小計(42科目)	-	59	0	0	5	8	7	10											兼1	
統合分野	研究	看護研究の基礎	3前	1			1	1												
		英語論文のクリティカル	3後	1			8	7	7	12										
		卒業研究	4通	3			8	9	7	12										
	看護マネジメント	災害看護学	2後	1				1	1	1	1									
		医療安全学	3前	1			2													
		看護管理学	3前	1			2													
		国際看護学Ⅰ	3前		2			1												
		国際看護学Ⅱ	4前	1			1													
		チーム医療論	4前	1			1													
		看護政策論	4後		1		1													
		看護学統合演習	4前	1			6	6	7	11	1									
		看護学統合実習	4前	2			6	6	7	11	1									
	キャリアマネジメント	看護職とキャリア形成	4後	1				1												
		NP論	4後		1		1	1												
		キャリア開発実習：クリティカルケア	4前		2		6	6	7	11	1									
		キャリア開発実習：がん看護	4前		2		6	8	7	11	1									
		キャリア開発実習：認知症患者のケア	4前		2		6	6	7	11	1									
		キャリア開発実習：重症心身障害者のケア	4前		2		6	6	7	11	1									
		キャリア開発実習：マタニティケア	4前		2		6	6	7	11	1									
		キャリア開発実習：精神疾患患者のケア	4前		2		6	6	7	11	1									
		キャリア開発実習：地域保健行政・在宅	4前		2		6	6	7	11	1									
		キャリア開発実習：国際感染症患者のケア	4前		2		6	6	7	11	1									
小計(22科目)	-	14	20	0	8	10	7	10	2										兼0	
合計(104科目)	-	116	33	0	8	10	7	10	2										34	
「基礎分野」については14単位、「専門基礎分野」については29単位、「専門分野」については59単位、「統合分野」については14単位、上記4分野からの選択科目8単位の合計124単位以上とする。(履修科目の登録の上限:45単位(年間))																				

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・ 「自然科学の基礎」の「兼任・兼任1」を「兼任・兼任0」に変更。
- ・ 「実用英語Ⅰ」、「実用英語Ⅱ」、「実用英語Ⅲ」の「兼任・兼任4」を「兼任・兼任3」に変更。
- ・ 「疾病と治療Ⅳ(泌尿器系・生殖器系・内分泌系)」の「教授1」を「教授0」に変更。
- ・ 「臨床検査学演習」の「教授3」を「教授1」に変更。
- ・ 「公衆衛生学」の「教授1」を「教授0」に変更。
- ・ 「実用医療英語」の「教授2」を「教授0」、「兼任・兼任0」を「兼任・兼任1」に変更。
- ・ 「看護学体験実習」の「准教授0」を「准教授1」、「助教10」を「助教8」に変更。
- ・ 「看護実践技術論Ⅰ(日常生活における援助技術と判断)」、「看護実践技術論Ⅱ(治療・処置における援助技術と判断)」、「看護実践技術論Ⅲ(看護技術の統合)」、「ヘルスアセスメント」、「看護過程と看護方法論」の「准教授0」を「准教授1」、「助教0」を「助教1」に変更。
- ・ 「フィジカルアセスメント」の「教授1」を「教授0」、「准教授0」を「准教授1」、「助教0」を「助教1」に変更。
- ・ 「日常生活援助展開実習」の「准教授0」を「准教授1」、「講師1」を「講師3」、「助教10」を「助教8」に変更。
- ・ 「看護過程展開実習」の「助教10」を「助教8」に変更。
- ・ 「成人看護学概論」、「急性期看護論」の「教授0」を「教授1」、「准教授2」を「准教授1」に変更。
- ・ 「終末期看護論」の「教授0」を「教授1」、「准教授1」を「准教授0」に変更。
- ・ 「成人看護実践論」、「成人看護の探求」の「教授0」を「教授1」、「准教授2」を「准教授」に変更。
- ・ 「終末期看護学実習」、「老年看護学概論」の「教授0」を「教授1」、「准教授1」を「准教授0」に変更。
- ・ 「老年看護実践論」の「教授0」を「教授1」、「准教授2」を「准教授1」に変更。
- ・ 「母性看護学概論」の「教授1」を「教授0」に変更。
- ・ 「母性看護実践論」、「母性看護学実習」の「助教2」を「助教1」に変更。
- ・ 「在宅看護学概論」の「講師1」を「講師0」に変更。
- ・ 「在宅看護実践論Ⅰ(在宅における看護技術と危機管理)」の「助教2」を「助教1」に変更。
- ・ 「在宅看護実践論Ⅱ(地域におけるケアシステムと連携)」、「在宅看護学実習」の「講師1」を「講師0」に変更。
- ・ 「地域看護学概論」の「講師0」を「講師1」、「助教2」を「助教1」に変更。
- ・ 「自立支援教育論」、「疾病予防看護学」の「助教2」を「助教1」に変更。
- ・ 「看護研究の基礎」の「教授3」を「教授1」に変更。
- ・ 「英語論文のクリティーク」の「教授8」を「教授6」、「准教授8」を「准教授7」、「助教10」を「助教7」に変更。
- ・ 「卒業研究」の「教授8」を「教授6」、「助教10」を「助教7」、「兼任・兼任1」を「兼任・兼任0」に変更。
- ・ 「災害看護学」の「助教2」を「助教1」に変更。
- ・ 「看護学統合実習」の「教授4」を「教授5」、「講師7」を「講師4」、「助教10」を「助教7」に変更。
- ・ 「国際看護学Ⅰ」の「教授1」を「教授0」に変更。
- ・ 「NP論」、「看護政策論」の「兼任・兼任1」を「兼任・兼任0」に変更。

【令和3年度】

- ・ 「自然科学の基礎」の「教授1」を「教授2」、「講師0」を「講師1」、「兼任・兼任1」を「兼任・兼任0」に変更。
- ・ 「統計学」の「准教授0」を「准教授1」、「兼任・兼任1」を「兼任・兼任0」に変更。
- ・ 「実用英語Ⅰ」の「兼任・兼任4」を「兼任・兼任1」に変更。
- ・ 「実用英語Ⅲ」の「兼任・兼任4」を「兼任・兼任1」に変更。
- ・ 「解剖生理学Ⅰ」「解剖生理学Ⅱ」の「教授0」を「教授1」、「准教授0」を「准教授1」、「兼任・兼任1」を「兼任・兼任0」に変更。
- ・ 「臨床検査学演習」の「教授3」を「教授2」、「講師0」を「講師1」に変更。
- ・ 「公衆衛生学」の「准教授0」を「准教授1」、「講師0」を「講師1」、「助教1」を「助教0」に変更。
- ・ 「医療・看護情報学の基礎」の「准教授0」を「准教授1」、「兼任・兼任1」を「兼任・兼任0」に変更。
- ・ 「実用医療英語」の「教授2」を「教授1」に変更。
- ・ 「保健医療福祉システム論」の「准教授1」を「准教授0」に変更。
- ・ 「看護倫理」の「教授0」を「教授1」、「准教授1」を「准教授0」に変更。
- ・ 「看護理論」の「准教授1」を「准教授0」、「講師0」を「講師1」に変更。
- ・ 「看護学体験実習」の「准教授0」を「准教授1」、「講師1」を「講師3」、「助教10」を「助教6」、「助手7」を「助手4」に変更。
- ・ 「看護実践技術論Ⅰ(日常生活における援助技術と判断)」、「看護実践技術論Ⅱ(治療・処置における援助技術と判断)」、「看護実践技術論Ⅲ(看護技術の統合)」、「ヘルスアセスメント」、「看護過程と看護方法論」の「准教授0」を「准教授1」、「助教0」を「助教1」、「助手3」を「助手2」に変更。
- ・ 「フィジカルアセスメント」の「教授1」を「教授0」、「准教授0」を「准教授2」、「講師2」を「講師1」、「助教0」を「助教1」、「助手3」を「助手2」に変更。
- ・ 「日常生活援助展開実習」の「准教授0」を「准教授1」、「講師1」を「講師5」、「助教10」を「助教8」、「助手7」を「助手4」に変更。
- ・ 「看護過程展開実習」の「准教授0」を「准教授1」、「講師1」を「講師3」、「助教10」を「助教6」、「助手7」を「助手4」に変更。
- ・ 「成人看護学概論」、「急性期看護論」の「教授0」を「教授1」、「准教授2」を「准教授1」に変更。
- ・ 「慢性期看護論」の「講師0」を「講師1」に変更。
- ・ 「終末期看護論」の「教授0」を「教授1」、「准教授1」を「准教授0」に変更。
- ・ 「成人看護実践論」、「成人看護の探求」の「教授0」を「教授1」、「准教授2」を「准教授1」に変更。
- ・ 「終末期看護学実習」の「教授0」を「教授1」、「准教授1」を「准教授0」に変更。
- ・ 「老年看護学概論」の「教授0」を「教授1」、「准教授1」を「准教授0」、「講師1」を「講師2」に変更。
- ・ 「老年看護実践論」の「教授0」を「教授1」、「准教授2」を「准教授1」、「講師2」を「講師3」に変更。
- ・ 「老年生活支援実習」の「講師1」を「講師2」、「助手2」を「助手1」に変更。
- ・ 「母性看護学概論」の「教授1」を「教授0」、「助教0」を「助教1」に変更。
- ・ 「母性看護実践論」、「母性看護学実習」の「講師0」を「講師1」、「助教2」を「助教1」に変更。
- ・ 「在宅看護学概論」の「教授0」を「教授1」、「講師1」を「講師0」に変更。
- ・ 「在宅看護実践論Ⅰ(在宅における看護技術と危機管理)」、「在宅看護実践論Ⅱ(地域におけるケアシステムと連携)」の「教授0」を「教授1」、「助教2」を「助教1」に変更。
- ・ 「在宅看護学実習」の「教授0」を「教授1」、「助教2」を「助教1」に変更。

- ・「地域看護学概論」の「教授0」を「教授1」、「講師0」を「講師1」、「助教2」を「助教1」に変更。
- ・「自立支援教育論」、「疾病予防看護学」の「助教2」を「助教1」に変更。
- ・「疾病予防看護学」の「助教2」を「助教1」に変更。
- ・「看護研究の基礎」の「教授3」を「教授1」に変更。
- ・「英語論文のクリティーク」の「講師7」を「講師11」、「助教10」を「助教8」、「助手7」を「助手4」に変更。
- ・「卒業研究」の「講師7」を「講師11」、「助教10」を「助教8」、「助手7」を「助手4」、「兼任・兼担1」を「兼任・兼担0」に変更。
- ・「災害看護学」の「助教2」を「助教1」に変更。
- ・「看護学統合実習」の「教授4」を「教授6」、「講師7」を「講師11」、「助教10」を「助教8」、「助手0」を「助手4」に変更。
- ・「国際看護学Ⅰ」の「教授1」を「教授0」に変更。
- ・「NP論」の「准教授0」を「准教授1」、「兼任・兼担1」を「兼任・兼担0」に変更。
- ・「看護政策論」の「兼任・兼担1」を「兼任・兼担0」に変更。

- (注) ・ 2 (1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

【令和4年度】

指定規則の一部改正に伴い、下記のとおり、科目の追加及び削除等を行った。

- ・「カウンセリングの基礎」、「看護学統合演習」、「キャリア開発実習：クリティカルケア」、「キャリア開発実習：がん看護」、「キャリア開発実習：認知症患者のケア」、「キャリア開発実習：重症心身障害者のケア」、「キャリア開発実習：マタニティケア」、「キャリア開発実習：精神疾患患者のケア」、「キャリア開発実習：地域保健行政・在宅ケア」、「キャリア開発実習：国際感染症患者のケア」を新たに設置。
- ・「生化学」、「臨床薬理学演習」、「社会保障制度概論」、「老年生活支援実習」、「老年看護学実習」を削除。
- ・「疾病予防看護論」→「疾病予防看護学」に名称変更。
- ・「栄養学」→「臨床栄養学演習」に名称変更。
- ・「看護情報学・統計学演習」→「統計学」、「医療・看護情報の基礎」に名称変更し2科目に分けた。
- ・「在宅看護実践論」→「在宅看護実践論Ⅰ」、「在宅看護実践論Ⅱ」に名称変更し2科目に分けた。
- ・「慢性期看護学実習」の単位数を2単位→3単位に変更。
- ・「法学」の単位数を1単位→2単位に変更。
- ・「薬理学」の単位数を1単位→2単位に変更。
- ・「慢性期看護学実習」の単位数を2単位→3単位に変更。
- ・「疾病と治療Ⅴ(感覚器系・統合)」の単位数を2単位→1単位に変更。
- ・「看護学統合実習」の単位数を3単位→2単位に変更。
- ・「医療と法(看護関係法規)」の配当年次を2後→2前に変更。
- ・「公衆衛生学」の配当年次を2後→2前に変更。
- ・「フィジカルアセスメント」の配当年次を1後→2後に変更。
- ・「保健医療福祉システム論」の配当年次を2後(選択)→2前(必修)に変更。
- ・「地域看護学概論」の配当年次を2後→1前に変更。
- ・「自立支援教育論」の配当年次を2後→1後に変更。
- ・「疾病予防看護論」の配当年次を2後→2前に変更。
- ・「在宅看護学概論」の配当年次を3後→3前に変更。
- ・「慢性期看護学実習」の配当年次を2後→2後に変更。
- ・「在宅看護学実習」の配当年次を4前→3後に変更。
- ・「成人看護の探求」の配当年次を3後→4後に変更。
- ・「ボランティア論」の区分を「基礎分野」→「専門基礎分野」に変更。
- ・「臨床検査学演習」の「講師1」を「講師0」に変更。
- ・「公衆衛生学」の「講師1」を「講師0」、「助教0」を「助教1」に変更。
- ・「看護倫理」の「教授1」を「教授0」、「兼任・兼任0」を「兼任・兼任1」に変更。
- ・「看護理論」の「講師1」を「講師0」、「准教授0」を「准教授1」に変更。
- ・「看護学体験実習」の「准教授1」を「准教授2」、「講師3」を「講師1」、「助手4」を「助手2」に変更。

- ・「看護実践技術論Ⅰ(日常生活における援助技術と判断)」、「看護実践技術論Ⅱ(治療・処置における援助技術と判断)」、「看護実践技術論Ⅲ(看護技術の統合)」、「ヘルスアセスメント」、「看護過程と看護方法論」の「准教授1」を「准教授2」、「講師1」を「講師0」、「助教1」を「助教2」、「助手2」を「助手1」に変更。
- ・「フィジカルアセスメント」の「准教授2」を「准教授3」、「講師1」を「講師0」、「助教1」を「助教2」、「助手2」を「助手1」に変更。
- ・「日常生活援助展開実習」の「准教授1」を「准教授2」、「講師5」を「講師1」、「助教8」を「助教9」、「助手4」を「助手2」に変更。
- ・「看護過程展開実習」の「准教授1」を「准教授2」、「講師3」を「講師1」、「助教6」を「助教9」、「助手4」を「助手2」に変更。
- ・「急性期看護論」の「准教授1」を「准教授2」、「講師2」を「講師1」に変更。
- ・「慢性期看護論」の「講師1」を「講師0」、「助教0」を「助教1」に変更。
- ・「成人看護実践論」、「准教授1」を「准教授2」、「講師2」を「講師1」、「助教1」を「助教2」に変更。
- ・「成人看護の探求」の「准教授1」を「准教授2」、「講師2」を「講師1」に変更。
- ・「老年看護学概論」の「准教授0」を「准教授1」、「講師2」を「講師0」、「助教0」を「助教1」に変更。
- ・「老年看護実践論」の「准教授1」を「准教授2」、「講師3」を「講師1」、「助教1」を「助教2」に変更。
- ・「慢性期看護学実習」の「助教0」を「助教1」、「助手1」を「助手0」に変更。
- ・「母性看護学概論」の「教授0」を「教授1」、「准教授2」を「准教授1」に変更。
- ・「小児看護学概論」の「助教1」を「助教0」に変更。
- ・「小児看護実践論」の「助教1」を「助教0」に変更。
- ・「小児看護学実習」の「助教1」を「助教0」に変更。
- ・「在宅看護学概論」の「教授1」を「教授0」、「講師0」を「講師1」、「助教0」を「助教1」、「助手1」を「助手0」、「兼任・兼任0」を「兼任・兼任1」に変更。
- ・「在宅看護学実習」の「教授1」を「教授0」、「助手1」を「助手0」、「兼任・兼任0」を「兼任・兼任1」に変更。
- ・「地域看護学概論」の「教授1」を「教授0」、「兼任・兼任0」を「兼任・兼任1」に変更。
- ・「自立支援教育論」、「疾病予防看護学」の「助教2」を「助教1」に変更。
- ・「英語論文のクリティーク」の「准教授8」を「准教授10」、「講師11」を「講師6」、「助教8」を「助教11」、「助手4」を「助手2」に変更。
- ・「卒業研究」の「准教授9」を「准教授10」、「講師11」を「講師6」、「助教8」を「助教11」、「助手4」を「助手2」に変更。
- ・「看護学統合実習」の「教授6」を「教授5」、「准教授6」を「准教授8」、「講師11」を「講師6」、「助教8」を「助教11」、「助手4」を「助手2」に変更。

- (注) ・ 2 (1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

【令和5年度】

<ul style="list-style-type: none"> ・「解剖生理学Ⅱ」の「教授1」を「教授2」に変更。 ・「政策医療論」の「准教授0」を「准教授1」に変更。 ・「看護倫理」の「兼任1」を「兼任0」、「教授0」を「教授1」、「准教授0」を「准教授3」、「講師0」を「講師1」に変更。 ・「看護理論」の「助教0」を「助教1」に変更。 ・「看護教育学」の「助教0」を「助教1」に変更。 ・「看護学体験実習」の「准教授2」を「准教授1」、「助手2」を「助手1」に変更。 ・「看護実践技術論Ⅰ」の「准教授2」を「准教授1」、「講師0」を「講師1」、「助教2」を「助教3」に変更。 ・「看護実践技術論Ⅱ」の「准教授2」を「准教授2」、「講師0」を「講師1」、「助教2」を「助教3」に変更。 ・「看護実践技術論Ⅲ」の「准教授2」を「准教授1」、「講師0」を「講師1」、「助教2」を「助教3」に変更。 ・「ヘルスアセスメント」の「准教授2」を「准教授1」、「講師0」を「講師1」、「助教2」を「助教2」に変更。 ・「フィジカルアセスメント」の「准教授3」を「准教授2」、「講師0」を「講師1」、「助教2」を「助教3」に変更。 ・「看護過程と看護方法論」の「准教授2」を「准教授1」、「講師0」を「講師1」に変更。 ・「日常生活支援展開実習」の「准教授2」を「准教授1」、「助教9」を「助教8」、「助手2」を「助手1」に変更。 ・「地域看護学概論」の「教授0」を「教授1」に変更。 ・「看護過程展開実習」の「准教授2」を「准教授1」、「講師1」を「講師2」、「助教9」を「助教8」、「助手2」を「助手1」に変更。 ・「自立支援教育論」の「教授0」を「教授1」、「准教授1」を「准教授0」に変更。 ・「疾病予防看護論」の「准教授1」を「准教授0」、「助教1」を「助教2」に変更。 ・「在宅看護学概論」の「教授0」を「教授1」、「准教授1」を「准教授0」、「講師1」を「講師0」、「助教1」を「助教0」に変更。 ・「在宅看護実践論」の「准教授1」を「准教授0」、「助教1」を「助教2」に変更。 ・「在宅看護学実習」の「教授0」を「教授1」、「准教授1」を「准教授0」、「助教1」を「助教2」に変更。 ・「急性期看護論」の「講師1」を「講師2」、「助教1」を「助教2」に変更。 ・「慢性期看護論」の「講師0」を「講師1」に変更。 ・「成人看護実践論」の「講師1」を「講師2」に変更。 ・「在宅看護実践論」の「准教授1」を「准教授0」、「助教1」を「助教2」に変更。 ・「成人看護の探求」の「講師1」を「講師2」に変更。 ・「老年看護学概論」の「講師0」を「講師1」、「助教1」を「助教0」に変更。 ・「老年看護実践論」の「助教3」を「助教1」に変更。 ・「急性期看護学実習」の「講師1」を「講師2」に変更。 ・「母性看護実践論」の「教授01」を「教授1」に変更。 ・「慢性期看護学実習」の「講師0」を「講師1」、「助教1」を「助教2」に変更。
<ul style="list-style-type: none"> ・「看護研究の基礎」の「准教授2」を「准教授1」に変更。 ・「英語論文のクリテック」の「准教授10」を「准教授7」、「講師6」を「講師7」、「助教11」を「助教12」、「助手2」を「助手1」に変更。 ・「卒業研究」の「准教授10」を「准教授9」、「講師6」を「講師7」、「助教11」を「助教12」、「助手2」を「助手1」に変更。 ・「医療安全学」の「教授1」を「教授2」に変更。 ・「医療管理学」の「教授1」を「教授2」に変更。 ・「看護学統合演習」の「教授5」を「教授6」、「准教授8」を「准教授6」、「講師6」を「講師7」、「助手2」を「助手1」に変更。 ・「キャリア開発実習：クリティカルケア」の「教授5」を「教授6」、「准教授8」を「准教授6」、「講師6」を「講師7」、「助手2」を「助手1」に変更。 ・「キャリア開発実習：がん看護」の「教授5」を「教授6」、「准教授8」を「准教授6」、「講師6」を「講師7」、「助手2」を「助手1」に変更。 ・「キャリア開発実習：認知症患者のケア」の「教授5」を「教授6」、「准教授8」を「准教授6」、「講師6」を「講師7」、「助手2」を「助手1」に変更。 ・「キャリア開発実習：重症心身障害者のケア」の「教授5」を「教授6」、「准教授8」を「准教授6」、「講師6」を「講師7」、「助手2」を「助手1」に変更。 ・「キャリア開発実習：マタニティケア」の「教授5」を「教授6」、「准教授8」を「准教授6」、「講師6」を「講師7」、「助手2」を「助手1」に変更。 ・「キャリア開発実習：精神疾患患者のケア」の「教授5」を「教授6」、「准教授8」を「准教授6」、「講師6」を「講師7」、「助手2」を「助手1」に変更。 ・「キャリア開発実習：地域保健行政・在宅ケア」の「教授5」を「教授6」、「准教授8」を「准教授6」、「講師6」を「講師7」、「助手2」を「助手1」に変更。 ・「キャリア開発実習：国際感染症患者のケア」の「教授5」を「教授6」、「准教授8」を「准教授6」、「講師6」を「講師7」、「助手2」を「助手1」に変更。

(注) 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
86 科目	15 科目	0 科目	101 科目	82 科目 [△5]	22 科目 [+7]	0 科目 []	104 科目 [+3]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{101} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 新学部設置に係る 借入面積:12,098㎡ 借用期間:42年			
	校舎敷地	37,384 ㎡	0㎡	0㎡	37,384 ㎡				
	運動場用地	10,503 ㎡	0㎡	0㎡	10,503 ㎡				
	小 計	47,887 ㎡	0㎡	0㎡	47,887 ㎡				
	そ の 他	4,597 ㎡	0㎡	0㎡	4,597 ㎡				
合 計	52,483 ㎡	0㎡	0㎡	52,483 ㎡					
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 新学部設置に係る 借入面積:16,130㎡ 借用期間:42年			
		53,093 ㎡ (53,093 ㎡)	0㎡ (0 ㎡)	0㎡ (0 ㎡)	53,093 ㎡ (53,093 ㎡)				
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	届出学部全体		
		8室	13室	5室	1室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		東が丘看護学部 看護学科			44 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での 共有分を含む 電子ジャーナル 全キャンパス閲覧可	
	東が丘看護学部	20,000 [200] (16,156 [168]) 19,428 [190]	93 [48] 310 [24] (93 [48]) 310 [24] 313 [24]	3,580 [2,240] 4,327 [2870] (3,580 [2,240]) 4,327 [2870] 4,453 [2,918]	410 (354) 416	3,061 (2,781)	95 (95)		
	計	20,000 [200] (16,156 [168]) 19,428 [190]	93 [48] 310 [24] (93 [48]) 310 [24] 313 [24]	3,580 [2,240] 4,327 [2870] (3,580 [2,240]) 4,327 [2870] 4,453 [2,918]	410 (354) 416	3061 (2,781)	95 (95)		
(6) 図 書 館		面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数				届出学部全体	
		286㎡	85席	20000冊					
(7) 体 育 館		面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要					届出学部全体	
		582㎡	市 川 運 動 場 (桜 グ ラ ウ ン ド (多目的屋外運動場))						
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	届出学部全体
		教員1人当たり研究費等	400千円	400千円	図書購入費	10,000千円	15,000千円	15,000千円	
	共同研究費等	7,000千円	7,000千円	設備購入費	40,000千円	25,000千円	25,000千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次 1,850千円	第2年次 1,600千円	第3年次 1,600千円	第4年次 1,550千円	第5年次 -	第6年次 -		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学経常経費補助金							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA/C対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称		〇〇大学										平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	5	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	6	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	5	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	5
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考						
	年	人	年次人	人		倍	倍	倍	倍	年度	年度								
医療保健学部		280		1120								-							
看護学科	4	100		400	学士(看護学)	1.14	-	1.16	-	-	平成17年度	五反田キャンパス 東京都品川区東五反田4-1-17							
医療栄養学科	4	100		400	学士(栄養学)	0.79	-	0.78	-	-	平成17年度	世田谷キャンパス 東京都世田谷区世田谷3-11-3							
医療情報学科	4	80		320	学士(医療情報学)	0.86	-	0.88	-	-	平成17年度	世田谷キャンパス 東京都世田谷区世田谷3-11-3							
東が丘・立川看護学部	-			200									※平成32年度より学生募集停止						
看護学科 臨床看護学コース	4	-		100	学士(看護学)					-	平成22年度	国立病院機構 東京都目黒区東が丘2-5-1	(東が丘・立川看護学部)						
看護学科 災害看護学コース	4	-		100	学士(看護学)					-	平成28年度	国立病院機構 立川キャンパス 東京都立川市緑町3256							
東が丘看護学部		100		400															
看護学科	4	100		400	学士(看護学)	1.16	-	1.15	-	-	令和2年度	国立病院機構 東京都目黒区東が丘2-5-1							
立川看護学部		100		400															
看護学科	4	100		400	学士(看護学)	1.18	-	1.15	-	-	令和2年度	国立病院機構 立川キャンパス 東京都立川市 緑町3256							
千葉看護学部		100		400															
看護学科	4	100		400	学士(看護学)	1.18	-	1.17	-	-	平成30年度	船橋キャンパス 千葉県船橋市 高砂町 1-1042-2							
和歌山看護学部		90		360															
看護学科	4	90		360	学士(看護学)	1.13	-	1.14	-	-	平成30年度	雄滝キャンパス 和歌山県和歌山市東松ノ上 丁3							
大学全体	4	670		2680		0.98	-	1.06	-										

4 既設大学等の状況

大学の名称		〇〇大学									平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	1	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	1	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	1	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	1
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考					
	年	人	年次人	人		倍	倍	倍	倍	年度	年度							
〇〇学部	4	150	3年次10人	620	-	1.02	1.01	1.02	1.01	-	平成23	-						
△△学科	4	80	0	320	学士(△△学)	1.28	-	1.28	1.27	-	令和3	〇〇県〇〇市〇〇〇〇〇〇〇〇...						
××学科	4	-	-	-	学士(××学)	-	-	-	-	-	平成23	同上	令和4年度入学生より学生募集停止					
□□学科	4	70	3年次10人	300	学士(□□学)	0.92	-	0.92	-	-	平成30	同上						
□□専攻	4	40	5	-	学士(□□学)	0.89	-	0.89	-	-	平成30	同上						
■●専攻	4	30	5	-	学士(□□学)	0.94	-	0.94	-	-	平成30	同上						
〇〇学部	4	30	0	120	-	0.53	-	0.53	-	令和4	平成25	-						
◇◇学科	4	30	0	120	学士(□□学)	0.53	-	0.53	-	令和4	平成25	〇〇県〇〇市〇〇〇〇〇〇〇〇...	令和4年度から入学定員変更(40→30)					
大学全体	4	180	3年次10人	740	-	-	-	-	-	-	-	-						

大学の名称	〇〇短期大学					平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	1	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	1	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	1	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	1
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考
	年	人	年次人	人		倍		倍	倍	年度	年度		
〇〇学科	2	100	-	200	短期大学士(〇〇学)	0.57	-	0.57	-	-	令和3	〇〇県〇〇市〇〇〇〇〇〇〇〇	
●●学科	3	80	-	240	短期大学士(●●学)	1.15	-	1.15	1.14	-	平成27	同上	
大学全体	2 3	100 80	-	440	-	-	-	-	-	-	-	-	

大学の名称	〇〇高等専門学校					平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	1	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	1	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	1	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	1
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考
	年	人	年次人	人		倍		倍	倍	年度	年度		
〇〇学科	5	100	-	500	専修士(〇〇)	0.63	-	0.63	-	-	令和4	〇〇県〇〇市〇〇〇〇〇〇〇〇	
●●学科	5	200	-	1000	専修士(〇〇)	1.15	-	1.15	1.14	-	平成26	同上	
大学全体	5	300	-	1500	-	-	-	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 (様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。)
- ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - ・「平均入学定員超過率(控除後含む)」及び「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

専任 助教	小嶋 聖都子 (40) <平成22年4月> 修士(看護学)	小嶋 聖都子 (41) <令和2年4月> 修士(看護学)	小嶋 聖都子 (42) <令和2年4月> 修士(看護学)	小嶋 聖都子 (43) <令和2年4月> 修士(看護学)	小嶋 聖都子 (44) <令和5年4月> 修士(看護学)
専任 助教	菅原幸哉 日本生活福祉動向調査 看護学基礎論 看護実践関係論 英語論文のクオリティー 自治体事務実習 看護学総合実習 卒業研究	菅原幸哉 日本生活福祉動向調査 看護学基礎論 看護実践関係論 英語論文のクオリティー 自治体事務実習 看護学総合実習 卒業研究	菅原幸哉 日本生活福祉動向調査 看護学基礎論 看護実践関係論 英語論文のクオリティー 自治体事務実習 看護学総合実習 卒業研究	菅原幸哉 日本生活福祉動向調査 看護学基礎論 看護実践関係論 英語論文のクオリティー 自治体事務実習 看護学総合実習 卒業研究	菅原幸哉 日本生活福祉動向調査 看護学基礎論 看護実践関係論 英語論文のクオリティー 自治体事務実習 看護学総合実習 卒業研究
専任 助教	日高 志希恵 (45) <平成22年4月> 修士(看護学)	日高 志希恵 (45) <令和2年4月> 修士(看護学)	日高 志希恵 (47) <令和2年4月> 修士(看護学)		
専任 助教	看護学基礎論 日本生活福祉動向調査 臨床検定実習 公衆衛生学 看護学基礎論 英語論文のクオリティー 看護学総合実習 卒業研究	看護学基礎論 日本生活福祉動向調査 臨床検定実習 公衆衛生学 看護学基礎論 英語論文のクオリティー 看護学総合実習 卒業研究	看護学基礎論 日本生活福祉動向調査 臨床検定実習 公衆衛生学 看護学基礎論 英語論文のクオリティー 看護学総合実習 卒業研究		
			田辺 厚子 (42) <令和2年(11月)> 修士(看護学)		
			専任 講師		
				高田 由紀子 (51) <令和4年(4月)> 博士(看護福祉総合学)	
				専任 講師	
					高田 由紀子 (52) <令和4年(4月)> 博士(看護福祉総合学)
					専任 講師
					菅原 穂穂 (50) <令和5年(4月)> 修士(看護学)
					専任 講師
専任 助教	井本 由希子 (46) <平成22年4月> 修士(看護学)	井本 由希子 (46) <令和2年4月> 修士(看護学)	井本 由希子 (47) <令和2年4月> 修士(看護学)	井本 由希子 (47) <令和2年4月> 修士(看護学)	井本 由希子 (47) <令和2年4月> 修士(看護学)
専任 助教	看護学基礎論 日本生活福祉動向調査 看護学基礎論 看護実践関係論 英語論文のクオリティー 看護学総合実習 卒業研究	看護学基礎論 日本生活福祉動向調査 看護学基礎論 看護実践関係論 英語論文のクオリティー 看護学総合実習 卒業研究	看護学基礎論 日本生活福祉動向調査 看護学基礎論 看護実践関係論 英語論文のクオリティー 看護学総合実習 卒業研究	看護学基礎論 日本生活福祉動向調査 看護学基礎論 看護実践関係論 英語論文のクオリティー 看護学総合実習 卒業研究	看護学基礎論 日本生活福祉動向調査 看護学基礎論 看護実践関係論 英語論文のクオリティー 看護学総合実習 卒業研究
専任 助教					
専任 助教	駒屋 扶麻子 (39)				
専任 助教	看護学基礎論 日本生活福祉動向調査 看護学基礎論 英語論文のクオリティー 看護学総合実習 卒業研究				
専任 助教	織谷 圭一 (37) <平成22年4月> 修士(医科学)	織谷 圭一 (37) <令和2年4月> 修士(医科学)	織谷 圭一 (39) <令和2年4月> 修士(医科学)		
専任 助教	看護学基礎論 日本生活福祉動向調査 看護学基礎論 看護実践関係論 英語論文のクオリティー 看護学総合実習 卒業研究	看護学基礎論 日本生活福祉動向調査 看護学基礎論 看護実践関係論 英語論文のクオリティー 看護学総合実習 卒業研究	看護学基礎論 日本生活福祉動向調査 看護学基礎論 看護実践関係論 英語論文のクオリティー 看護学総合実習 卒業研究		
専任 助教					
専任 助教	菅原 悠美 (36) <平成22年4月> 修士(看護学)	菅原 悠美 (37) <令和2年4月> 修士(看護学)	菅原 悠美 (38) <令和2年4月> 修士(看護学)	菅原 悠美 (38) <令和2年4月> 修士(看護学)	菅原 悠美 (38) <令和5年4月> 修士(看護学)
専任 助教	看護学基礎論 日本生活福祉動向調査 看護学基礎論 英語論文のクオリティー 看護学総合実習 卒業研究	看護学基礎論 日本生活福祉動向調査 看護学基礎論 看護実践関係論 英語論文のクオリティー 看護学総合実習 卒業研究	看護学基礎論 日本生活福祉動向調査 看護学基礎論 看護実践関係論 英語論文のクオリティー 看護学総合実習 卒業研究	看護学基礎論 日本生活福祉動向調査 看護学基礎論 看護実践関係論 英語論文のクオリティー 看護学総合実習 卒業研究	看護学基礎論 日本生活福祉動向調査 看護学基礎論 看護実践関係論 英語論文のクオリティー 看護学総合実習 卒業研究
専任 助教					
専任 助教	早坂 宏美 (39)	早坂 宏美 (39)			
専任 助教	看護学基礎論 日本生活福祉動向調査 看護学基礎論 英語論文のクオリティー 看護学総合実習 卒業研究	看護学基礎論 日本生活福祉動向調査 看護学基礎論 英語論文のクオリティー 看護学総合実習 卒業研究			

								佐藤 孝典 (38) ＜平成30年4月＞ 修士（看護学） 保健医療戦略 法人経営戦略 医療論文のクオリティアップ 看護研究 慢性呼吸器疾患 慢性呼吸器疾患看護（II） 看護学総合高度 看護施設経営 看護学国際高度
								藤山 真 (38) ＜平成30年4月＞ 修士 （看護情報・看護管理学） 看護施設経営 （看護情報・看護管理学）
								安藤 紗央希 (31) ＜平成30年4月＞ 修士（看護学） 保健医療戦略Ⅰ 看護施設経営Ⅱ 看護施設経営Ⅲ 医療論文のクオリティアップ 看護研究 看護学総合高度 看護施設経営 看護学国際高度
								山口 徹穂子 (42) ＜平成30年4月＞ 修士（看護学） 医療論文のクオリティアップ 看護研究 看護学総合高度
								藤山 なおみ (42) ＜平成30年4月＞ 修士（看護学）
東田	教授	澤田 朋子 (78) ＜平成32年4月＞ 博士（薬学） 管理栄養論 NPO論 栄養管理						
東田	准教授	高木 晴長 (52) ＜平成32年4月＞ 修士（看護学） 看護学総合高度 看護学総合高度 看護学国際高度 ボランティア論	東田	准教授	高木 晴長 (52) ＜平成32年4月＞ 修士（看護学） 看護学総合高度 看護学総合高度 看護学国際高度 ボランティア論			
東田	講師	堀田 昇善 (34) ＜平成32年4月＞ 博士（看護学） 公衆衛生学 ボランティア論 国際化と医療	東田	講師	堀田 昇善 (34) ＜平成32年4月＞ 博士（看護学） 公衆衛生学 ボランティア論 国際化と医療			
東田	講師	山本 伸祐 (52) ＜平成32年4月＞ 博士（文学） 人間関係論 哲学 倫理学	東田	講師	山本 伸祐 (51) ＜平成32年4月＞ 博士（文学） 哲学 倫理学	東田	講師	山本 伸祐 (52) ＜平成32年4月＞ 博士（文学） 哲学 倫理学
東田	教授	栗田 英敏 (69) ＜平成33年4月＞ 修士（教育学） 教育学	東田	教授	栗田 英敏 (71) ＜平成33年4月＞ 修士（教育学） 教育学	東田	教授	栗田 英敏 (72) ＜平成33年4月＞ 修士（教育学） 教育学
東田	講師	高野 直紙 (42) ＜平成32年4月＞ 博士（臨床看護学） 臨床看護学Ⅰ 臨床看護学Ⅱ	東田	講師	高野 直紙 (41) ＜平成32年4月＞ 博士（臨床看護学） 臨床看護学Ⅰ 臨床看護学Ⅱ			
						東田	講師	菅原 匠真 (31) ＜平成32年4月＞ 修士（教育学） 教育心理学 教育社会学 教育文化論
						東田	講師	斎藤 智樹 (36) ＜平成32年4月＞ 修士（学際） 教育心理学Ⅰ 教育心理学Ⅱ 教育文化論
東田	講師	栗田 真由美 (55) ＜平成29年4月＞ 博士（日本語日本文学） 人間関係論	東田	講師	栗田 真由美 (42) ＜平成29年4月＞ 博士（日本語日本文学） 人間関係論	東田	講師	栗田 真由美 (41) ＜平成29年4月＞ 博士（日本語日本文学） 人間関係論
東田	講師	大谷 智子 (47) ＜平成32年4月＞ 博士（心理学） 心理学	東田	講師	大谷 智子 (44) ＜平成32年4月＞ 博士（心理学） 心理学	東田	講師	大谷 智子 (45) ＜平成32年4月＞ 博士（心理学） 心理学
東田	講師	大倉 優実 (54) ＜平成32年4月＞ 博士（社会学） 社会学	東田	講師	大倉 優実 (55) ＜平成32年4月＞ 博士（社会学） 社会学	東田	講師	大倉 優実 (57) ＜平成32年4月＞ 博士（社会学） 社会学
東田	講師	尾月 重徳 (77) ＜平成32年4月＞ 博士（教育学） 文化人類学	東田	講師	尾月 重徳 (78) ＜平成32年4月＞ 博士（教育学） 文化人類学	東田	講師	尾月 重徳 (80) ＜平成32年4月＞ 博士（教育学） 文化人類学
東田	講師	真谷 伸 (55) ＜平成32年4月＞ 修士（社会学） 社会学	東田	講師	真谷 伸 (56) ＜平成32年4月＞ 修士（社会学） 社会学			
						東田	講師	磯崎 久美 (31) ＜平成32年4月＞ 修士（社会学） 社会学

兼任 講師	新田 功 (87) <平成33年4月> 博士(経済学)	兼任 講師	新田 功 (87) <令和3年4月> 博士(経済学)				
兼任 講師	辻 憲弘 (84) <平成33年4月> 学士(教養)	兼任 講師	辻 憲弘 (85) <令和3年4月> 学士(教養)	兼任 講師	辻 憲弘 (87) <令和3年4月> 学士(教養)	兼任 講師	辻 憲弘 (88) <令和5年4月> 学士(教養)
兼任 講師	石川 夏樹 (86) <平成33年4月> 博士(政治学)	兼任 講師	石川 夏樹 (87) <令和3年4月> 博士(政治学)	兼任 講師	石川 夏樹 (88) <令和3年4月> 博士(政治学)		
兼任 講師	新井 公人 (86) <平成33年4月> 博士(医学)	兼任 講師	新井 公人 (86) <令和3年4月> 博士(医学)	兼任 講師	新井 公人 (87) <令和3年4月> 博士(医学)		
兼任 講師	森岡 秀夫 (87) <平成33年4月> 博士(医学)	兼任 講師	森岡 秀夫 (88) <令和3年4月> 博士(医学)	兼任 講師	森岡 秀夫 (89) <令和3年4月> 博士(医学)		
兼任 講師	尾藤 顕明 (85) <平成33年4月> 博士(理学)	兼任 講師	尾藤 顕明 (85) <令和3年4月> 博士(理学)	兼任 講師	尾藤 顕明 (86) <令和3年4月> 博士(理学)		
兼任 講師	磯山 光敏 (84) <平成33年4月> 博士(医学)	兼任 講師	磯山 光敏 (86) <令和3年4月> 博士(医学)	兼任 講師	磯山 光敏 (86) <令和3年4月> 博士(医学)		
兼任 講師	福重 智洋 (84) <平成33年4月> 短期大学士(後期卒業)	兼任 講師	福重 智洋 (85) <令和3年4月> 短期大学士(後期卒業)	兼任 講師	福重 智洋 (87) <令和3年4月> 短期大学士(後期卒業)		
兼任 講師	大谷 肇 (80) <平成33年4月> 博士(心理学)	兼任 講師	大谷 肇 (81) <令和3年4月> 博士(心理学)	兼任 講師	大谷 肇 (81) <令和3年4月> 博士(心理学)		
兼任 講師	高井 一夫 (85) <平成33年4月> 博士(理学)	兼任 講師	高井 一夫 (85) <令和3年4月> 博士(理学)	兼任 講師	高井 一夫 (85) <令和3年4月> 博士(理学)		

- (注) ・ 報告年度の6月1日現在の情報を記入してください。(満年齢については、各年度末時点の情報として記入してください)。
・ 認可申請書又は登録届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
・ 情報の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を参照してください。
・ 「認可申請又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を赤字で記入してください。
その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字としてください。
・ 年齢は、それぞれの年度の6月1日現在の誕生日を記入してください。
・ 兼任(専門職大等学等は専、実(研)、実(研)、兼任、兼任の順に記入してください)。
・ 不属な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以降)の数は適宜削除してください。
・ 指定課程の改正より、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「当該設置科目名」の上欄に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の設置科目名を記入するとともに、下欄に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の設置科目名を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- 専任教員に関する変更
 - 令和2年3月今井秀樹教授が就任、後任は同4月に着任した内山孝子准教授が専任就任
 - 令和2年3月長島真由美講師が就任、後任は同4月に着任したハーネト明博助教が専任就任
 - 令和2年3月齋藤益子教授が就任、後任は同4月に着任したハーネト明博助教が専任就任
 - 令和2年3月酒井一夫教授が就任、兼任講師に就任
 - 令和2年3月加藤江里子講師が就任、後任は同4月に着任したハーネト明博助教が専任就任
 - 令和2年3月藤原枝里子助教が就任、後任は同4月に着任したハーネト明博助教が専任就任
 - 令和2年4月テックルト博士助教が就任
 - 令和2年4月竹内朋子准教授が教授に昇格
 - 令和2年4月加藤知子助教が講師に昇格
 - 令和2年4月駒田真由子助教が講師に昇格
 - 令和2年4月日高未希助教が博士(看護学)を取得
 - 令和2年4月山田恵子助教が博士(看護学)を取得

- 兼任、兼任教員に関する変更
 - 令和2年3月草間朋子教授が就任、後任は同4月に着任したハーネト明博助教が専任就任
 - 令和2年3月飯口慧兼任講師が就任、後任は同4月に着任したハーネト明博助教が専任就任
 - 令和2年3月榎原知樹兼任講師が就任、後任は同4月に着任したハーネト明博助教が専任就任
 - 令和2年3月大島久二兼任講師が就任、後任は同4月に着任したハーネト明博助教が専任就任
 - 令和2年3月吉川邦衛兼任講師が就任、後任は同4月に着任したハーネト明博助教が専任就任
 - 令和2年4月繁田典爾兼任講師が就任「人間関係論」を担当
 - ・実用英語Ⅰ及び実用英語Ⅱを新たに高橋杏紗兼任講師が担当

【令和3年度】

- 専任教員に関する変更
 - 令和2年8月明石真言教授が就任
 - 令和2年10月田辺洋子講師が就任
 - 令和3年3月岩本和子准教授が退職
 - 令和3年3月早坂奈美助教が退職
 - 令和3年4月大越扶貴教授が就任
 - 令和3年4月志雅之講師が就任
 - 令和3年4月廣岡佳代講師が就任
 - 令和3年4月浦中桂一講師が准教授に昇格
 - 令和3年4月小嶋奈都子助教が講師に昇格
 - 令和3年4月日高未希助教が講師に昇格

- 兼任、兼任教員に関する変更
 - 令和3年3月高木 晴良が就任、後任は専任教員の佐藤潤准教授が「医療・看護情報学の基礎」を担当
 - 令和3年3月堀田昇吾講師が就任、後任は専任教員の明石真言教授、小宇田智子准教授、日高未希准教授が「公衆衛生学」を担当、小宇田智子准教授が「ボランティア論」を担当、山西文子教授が「医療安全学」を担当
 - 令和3年3月高野海城講師が就任、後任は専任教員の明石真言教授、小宇田智子准教授が「解剖生理学Ⅰ」「解剖生理学Ⅱ」を担当
 - 令和3年3月貝谷伸講師が就任、後任は横溝久美講師が就任し「法学」を担当
 - 令和3年3月新田功講師が就任、後任は専任教員の浦中桂一准教授が「統計学」を担当
 - 令和3年3月酒井一夫講師が就任、後任は専任教員の明石真言教授が「実用医療英語」を担当
 - 令和3年3月大谷華講師が就任、後任は奥山康男講師が「人間工学」を担当
 - 令和3年4月青田庄真講師が就任
 - 令和3年4月黒沙也香講師、何欣琪講師、高橋杏紗講師が「実用英語Ⅰ」「実用英語Ⅲ」の担当から外れ青田庄真講師が担当

【令和4年度】

- 専任教員に関する変更
 - 令和3年10月田辺洋子講師が退職
 - 令和3年12月平出美栄子准教授が退職
 - 令和3年12月山田恵子助教が退職
 - 令和4年3月大越扶貴教授が退職、兼任講師に就任
 - 令和4年3月松田謙一講師が退職
 - 令和4年3月廣岡佳代講師が退職
 - 令和4年3月日高未希准教授が退職
 - 令和4年3月嶋谷圭一助教が退職
 - 令和4年3月磯崎真弓助教が退職
 - 令和3年11月島田三恵子教授が就任
 - 令和4年4月新山真奈美准教授が就任
 - 令和4年4月高田由紀子講師が就任
 - 令和4年4月丹後キズ子助教が就任
 - 令和4年4月岸達也助教が就任
 - 令和4年4月久保田真博助教が就任
 - 令和4年4月津井百合絵助教が就任
 - 令和4年4月赤石春佳助教が就任
 - 令和4年4月高橋智子講師が准教授に昇格

- 兼任、兼任教員に関する変更
 - 令和4年3月青田庄真講師が退職、後任は榎原知樹講師が就任し「実用英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を担当
 - 令和4年3月飯塚美乃講師が退職、後任は阿部貴子講師が就任し「情報リテラシー」を担当
 - 令和4年3月黒沙也香講師が退職、後任は奥石栄子講師が就任し「実用英語Ⅱ」を担当
 - 令和4年3月何欣琪講師が退職、後任はポココリアナ講師が就任し「実用英語Ⅲ」を担当
 - 令和4年3月谷地登講師が退職、後任は大塚知信講師が就任し「薬理学」を担当
 - 令和4年3月古川夏樹講師が退職、後任は得津講師が就任し「医療と法(看護関係法規)」を担当
 - 令和4年3月新井公人講師が退職、後任は武田真弘講師が就任し「疾病と治療Ⅲ(神経系、骨筋系)」を担当
 - 令和4年3月磯山光教講師が退職、後任は門間哲雄講師が就任し「疾病と治療Ⅳ(精神系)」を担当
 - 令和4年3月奥山康男講師が退職、後任は川原康弘講師が就任し「人間工学」を担当

【令和5年度】

- 専任教員に関する変更
 - 令和4年5月佐藤潤准教授が退職
 - 令和4年5月内山孝子准教授が退職
 - 令和4年3月加藤知子講師が退職、看護学研究科兼任
 - 令和4年3月井本由希子助教が退職
 - 令和4年3月テックルト博士助教が退職
 - 令和4年3月森田有紀助手が退職

- 令和5年4月佐藤いずみ准教授が就任
- 令和5年4月吉良理絵講師が就任
- 令和5年4月関口奈津子助教が就任
- 令和5年4月森山淳助教が就任
- 令和5年4月安藤紗矢香助教が就任

- 兼任、兼任教員に関する変更
 - 令和5年3月横溝久美講師が退職、後任は清澤清一郎講師が就任し「法学」を担当
 - 令和5年3月得津講師が退職、後任は清水美智未講師が就任し「医療と法(看護関係法規)」を担当
 - 令和5年3月藤島良介講師が退職、後任は田所真紀子講師が就任し「臨床栄養学演習」を担当
 - 令和5年3月門間哲雄講師が退職、後任は古野毅講師が就任し「疾病と治療Ⅴ」を担当

(注) ・ 変更内容を簡潔書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・ 認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けて専任教員として授業等を担当することは出来ません。
・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織(学科連係課程実施学科)の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二(短期大学設置基準第三条の二)に基づく「連係協力学部等(連係協力学科)」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等(連係協力学科)ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
12 名	6 名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。

・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在(報告時)の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
8	9	7	10	34	6	8	9	7	13	38	1
7	9	7	12	35	0						
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
8	9	7	13	37	1	8	9	7	13	37	1
[]	[]	[]	[+3]	[+2]	[Δ5]	[]	[]	[]	[+3]	[]	[Δ5]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。

・ 「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。

・ 「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、現在(報告時)の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、

[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)

・ 「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、

[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(C))の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	3 名	3 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{37}{34} = 108.82\%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{3}{38} = 7.89\%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{1}{6} = 16.66\%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
1	教授	今井 秀樹	R2.3	必修	看護学統合実習	①	R2年3月…一身上の都合（家族関係）による帰郷のため就任辞退
				必修	臨床検査学演習	①	
				必修	公衆衛生学	①	
				必修	実用医療英語	①	
				必修	看護研究の基礎	①	
				必修	英語論文のクリティーク	①	
2	教授	齋藤 益子	R2.3	必修	母性看護学概論	①	R2年3月、一身上の都合により就任辞退
				必修	国際看護学	①	
				必修	英語論文のクリティーク	①	
				必修	卒業研究	①	
3	教授	酒井 一夫	R2.3	必修	臨床検査学演習	①	R2年3月、一身上の都合により就任辞退
				必修	疾病と治療Ⅳ（泌尿器系・生殖器系・内分泌系）	①	
				必修	実用医療英語	①	
				必修	看護研究の基礎	①	
				必修	英語論文のクリティーク	①	
4	講師	長島 真由美	R2.3	必修	災害看護学	①	R2年3月、一身上の都合により就任辞退
				必修	疾病予防看護学	①	
				必修	自立支援教育論	①	
				必修	在宅看護学概論	①	
				必修	在宅看護学実践Ⅰ （在宅における看護技術と危	①	
				必修	英語論文のクリティーク	①	
				必修	在宅看護学実践Ⅱ （地域におけるケアシステム	①	
				必修	在宅看護学実習	①	
				必修	看護学統合実習	①	
				必修	卒業研究	①	
5	講師	加藤 江里子	R2.3	必修	英語論文のクリティーク	①	R2年3月、一身上の都合により就任辞退
				必修	看護学統合実習	①	
				必修	卒業研究	①	
6	助教	篠原 枝里子	R2.3	必修	看護学体験実習	①	R2年3月、一身上の都合により就任辞退
				必修	日常生活援助展開実習	①	
				必修	看護過程展開実習	①	
				必修	母性看護実践論	①	
				必修	英語論文のクリティーク	①	
				必修	母性看護学実習	①	
				必修	看護学統合実習	①	
				必修	卒業研究	①	
7	助教	早坂 奈美	R3.3	必修	看護学体験実習	①	R3年3月、一身上の都合により就任辞退
				必修	日常生活援助展開実習	①	
				必修	看護過程展開実習	①	
				必修	英語論文のクリティーク	①	
				必修	看護学統合実習	①	
				必修	卒業研究	①	
8	教授	大越 扶貴	R4.3	必修	看護倫理	①	R4年3月、一身上の都合により就任辞退
				必修	在宅看護学概論	①	
				必修	在宅看護学実践Ⅰ	①	
				必修	在宅看護学実践Ⅱ	①	
				必修	英語論文のクリティーク	①	
				必修	地域看護学概論	①	
				必修	看護学統合実習	①	
				必修	在宅看護学実習	①	
必修	卒業研究	①					

9	准教授	平出 美栄子	R3.12	必修	母性看護学概論	①	R3年12月、一身上の都合により就任辞退		
				必修	英語論文のクリティーク	①			
				必修	卒業研究	①			
10	講師	松田 謙一	R4.3	必修	老年看護学概論	①	R4年3月、一身上の都合により就任辞退		
				必修	老年看護実践論	①			
				必修	老年生活支援実習	①			
				必修	急性期看護論	①			
				必修	成人看護実践論	①			
				必修	老年看護学実習	①			
				必修	成人看護の探求	①			
				必修	英語論文のクリティーク	①			
				必修	看護学統合実習	①			
11	講師	廣岡 佳代	R4.3	必修	老年看護実践論	①	R4年3月、一身上の都合により就任辞退		
				必修	慢性期看護論	①			
				必修	老年看護学概論	①			
				必修	英語論文のクリティーク	①			
				必修	老年生活支援実習	①			
				必修	看護学統合実習	①			
12	講師	田辺 洋子	R3.10	必修	英語論文のクリティーク	①	R3年10月、一身上の都合により就任辞退		
				必修	看護学統合実習	①			
				必修	卒業研究	①			
13	講師	日高 未希恵	R4.3	必修	看護学体験実習	①	R4年3月、一身上の都合により就任辞退		
				必修	日常生活援助展開実習	①			
				必修	臨床検査学演習	①			
				必修	公衆衛生学	①			
				必修	看護過程展開実習	①			
				必修	英語論文のクリティーク	①			
				必修	看護学統合実習	①			
				必修	卒業研究	①			
14	助教	嶋谷 圭一	R4.3	必修	看護学体験実習	①	R4年3月、一身上の都合により就任辞退		
				必修	日常生活援助展開実習	①			
				必修	看護過程展開実習	①			
				必修	地域看護学概論	①			
				必修	災害看護学	①			
				必修	疾病予防看護学	①			
				必修	自立支援教育論	①			
				必修	在宅看護実践論Ⅰ	①			
				必修	英語論文のクリティーク	①			
				必修	在宅看護実践論Ⅱ	①			
				必修	在宅看護学実習	①			
				必修	看護学統合実習	①			
				必修	卒業研究	①			
				15	助教	山田 恵子		R3.12	必修
必修	日常生活援助展開実習	①							
必修	看護過程展開実習	①							
必修	小児看護学概論	①							
必修	小児看護実践論	①							
必修	小児看護学実習	①							
必修	看護学統合実習	①							
16	助教	篠崎 真弓	R4.3	必修	臨床検査学演習	①	R4年3月、一身上の都合により就任辞退		
				必修	英語論文のクリティーク	①			
				必修	看護学統合実習	①			
				必修	看護学体験実習	①			
				必修	日常生活援助展開実習	①			
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
16	人	必修	110 科目	必修	110 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	110 科目	計	110 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退 (未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退 (未就任)の理由」に就任辞退の理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) 一② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
								必修	選択	自由
1	准教授	佐藤 潤	令和4年6月	必修	災害看護学	①	R4年6月、一身上の都合により退職。(R4年度)			
				必修	疾病予防看護学	①				
				必修	自立支援教育論	①				
				必修	地域看護学概論	①				
				必修	看護研究の基礎	①				
				必修	在宅看護学概論	①				
				必修	在宅看護実践論Ⅰ	①				
				必修	英語論文のクリティーク	①				
				必修	在宅看護学実習	①				
				必修	看護学統合実習	①				
				必修	卒業研究	①				
2	准教授	内山 孝子	令和4年3月	必修	看護実践技術論Ⅰ	①	R4年3月、一身上の都合により退職。(R4年度)			
				必修	看護実践技術論Ⅱ	①				
				必修	看護実践技術論Ⅲ	①				
				必修	ヘルスアセスメント	①				
				必修	フィジカルアセスメント	①				
				必修	看護過程と看護方法論	①				
				必修	看護学体験実習	①				
				必修	日常生活援助展開実習	①				
				必修	看護過程展開実習	①				
				必修	英語論文のクリティーク	①				
				必修	看護学統合実習	①				
3	講師	加藤 知子	令和3年12月	必修	日常生活援助展開実習	①	R3年12月、一身上の都合により退職。(R4年度)			
				必修	英語論文のクリティーク	①				
				必修	看護学統合実習	①				
				必修	卒業研究	①				
4	助教	井本 由希子	令和4年3月	必修	日常生活援助展開実習	①	R4年3月、一身上の都合により退職。(R4年度)			
				必修	老年看護実践論	①				
				必修	老年生活支援実習	①				
				必修	成人看護実践論	①				
				必修	英語論文のクリティーク	①				
				必修	老年看護学実習	①				
				必修	看護学統合実習	①				
必修	卒業研究	①								
5	助教	デッケルト 博子	令和4年3月	必修	看護学体験実習	①	R4年3月、一身上の都合により退職。(R4年度)			
				必修	看護過程展開実習	①				
				必修	日常生活援助展開実習	①				
				必修	看護学統合実習	①				
				必修	英語論文のクリティーク	①				
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
5	人	必修	42	科目	必修	42	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	42	科目	計	42	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) 一③ 上記(3)一① ・ (3)一② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
21	人	必修	152	科目	必修	152	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	152	科目	計	152	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{21}{34} = \boxed{61.76} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計			後任補充状況の集計				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任准教授2名、専任講師1名、専任助教2名が、一身上の都合により退職及び辞任をされたが、教育に支障が生じない様、後任の補充を行うとともに、担当科目については、科目責任者を始め、複数の教員で担当しているため教育に支障は生じないとする。また、学生への周知はシラバスならびに、カリキュラムガイダンスを通じて、担当教員の変更を通知している。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (平成31年5月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年5月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和3年5月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和4年5月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和5年5月)	該当あり	退職者5名の減少要因は、学部長が東が丘に専念するとともに領域長への権限移譲による人事管理体制に強化によるもの。 【AC】 指摘事項 (改善)	履行中 ・業務のスリム化による教員の研究、教育活動に時間の捻出。 ・ハラスメント防止を徹底し風通しのよい職場づくり。

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4) (5)」と記載してください。
 - 【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<東が丘看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況
東京医療保健大学東が丘看護学部FD委員会規程（別途添付）に基づき、東が丘看護学部にてFD委員会を設置済

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）
毎月一回開催の計画

c 委員会の審議事項等

- (1) 授業内容・方法の改善
- (2) 研究推進体制の整備
- (3) 各種研修会、研究会の実施
- (4) 外部研究費の導入の推進
- (5) 職員研修会等の実施
- (6) その他FDに関すること

② 実施状況

a 実施内容（今年度は5月1日現在次の通り）

- ・ 令和4年度年報の作成（今後も継続予定）
- ・ FD分掌の作成に着手
- ・ 新任教員のための研修会（オンラインで開催）

b 実施方法
FD分掌の把握については、本学に望む教職員・組織の意見および日本の先駆的なFDSDに取り組んでいるFDマップを作成し、フェーズごとの目標達成及びフェーズに対応したFD研修を年間7回開催する予定。

c 開催状況（教員の参加状況含む）
委員会にて役割分担を行い、持ち帰って作業、次回の委員会に持ち寄って協議を進めた。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
実施中のため、結果測定は今後行う予定

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期
・ 例年実施することとしており、今年度においても、原則として各セメスター最終授業日に実施する。

b 教員や学生への公開状況、方法等
・ ホームページ（ウェブ）等で公開していくこととしているが、今年はaにより未定である。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

・ 本学学則第4条(注)に則り、本学全体の教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、自己点検・評価委員会を設置している。

(注)第4条 本学は、教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について、自ら点検評価を行い、その結果を公表する。

- 2 本学に自己点検・評価を行うため、東京医療保健大学自己点検・評価委員会を独立した特別委員会として設置する。
- 3 自己点検・評価に関する事項は別に定める。

・ 自己点検・評価委員会においては、本学の建学の精神及び教育目標・教育目的を具現化するために、教育研究活動に必要な組織・制度と諸条件を整備し、その機能を十分発揮できるよう本学の教育研究に関する活動状況並びに組織、施設・設備、運営状況等について、自己点検・評価を実施するとともに、所要の改善を図ることとしている。

・ 本学においては、平成20年度に開学後初となる自己点検・評価を実施し、その結果を報告書としてまとめ、ホームページに公表。平成21年度以降毎年度、自己点検・評価を実施し、公表している。

・ 平成30年度には、公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)を受審し、大学基準に適合していると認定。評価結果はホームページに公表。
なお、認定の期間は、平成31年4月1日から令和8年3月31日までとされている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

・ 新型コロナウイルス感染拡大防止対応があり、現状未定であるが学部教育再開後は教育研究等の状況について、自己点検・評価後、それぞれ報告書を取りまとめ公表する。(翌年5月を予定)

b 公表方法

・ 点検・評価報告書については、本学の大学経営会議及び理事会・評議員会において審議・承認を経た後、ホームページ上に公開している。

③ 認証評価を受ける計画

・ 平成30年度に受けただけであり、次回は令和7年度に公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)を受審する予定。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書(令和5年度)

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ a で「有」の場合 ≫

b 公表(予定)時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2~3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ a で公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。